

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和 2 年度学校評価 結果・学校関係者評価

学校名	玄海みらい学園
-----	---------

達成度（評価）
A：十分達成できている
B：おおむね達成できている
C：やや不十分である
D：不十分である

1 前年度 評価結果の概要	学校教育目標「みらいへの挑戦～Go up～」の認知度は高く、ことあるごとに保護者や地域に発信してきた成果が表れていた。また今年度は、県指定の学力向上推進地域指定を受け、全職員で学習スタイルの構築を行いそれをもとに授業に取り組み、前年度より成果を上げることができた。海洋教育についても積極的に取り組むことができ、学園として学年段階を追った系統的な活動を行うことができた。さらに、深化させるためには学習してきたことを発信する力を養うとともに、玄海町として地域の特性と良さを広く伝えられるようにしていきたい。 課題として、今年度取り組んできた校内研究をさらによいものにするための方策が必要である。また、児童生徒が自主的に物事に取り組む経験を積むことで達成感を味わわせる必要がある。
--------------------------	---

2 学校教育目標	みらいへステップ ～3つの笑顔で～
----------	-------------------

3 本年度の重点目標	①あいさつや返事のできる児童生徒の育成と推進 ②義務教育学校の特性を活かし、全職員が9年間の学びと育ちを意識した学校づくりの推進 ③生徒理解に基づいた生徒指導の充実と自主・自立の気概ある児童生徒の育成と推進	
------------	---	--

重点取組内容・成果指標				5 最終評価				主な担当者
(1)共通評価項目				最終評価		学校関係者評価		
重点取組	取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
●学力の向上	●「授業づくりのステップ1・2・3」を踏まえたoutput活動の充実	●学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師の割合が、前期課程80%以上、後期課程70%以上。	・「まとも・振り返りシート」を作成・活用し、書く活動を確保できる授業づくりを行う。 ・授業だけでなく学校教育の様々な場面で、「話し合い」や「書く」のようなoutput活動を取り入れる。	A	・「まとも・振り返り」を中心に学習に取り組んでいる児童生徒が82%とし目標に達していた。 ・コロナ禍の状況で、話し合い活動ができる場面を考えようにし、output活動を取り組んでいる教職員が96%となり、年間を通して増え定着している。	A	・本校は学習に対する意欲不足を指摘されて久しい。研究指定等の実践を通して、改善の兆しが見られればと期待したい。継続した実践をお願いしたい。	・学力向上対策コーディネーター ・研究主任
	○基礎学力の定着と応用力の伸長	○「家庭学習のすすめ」を配布し、家庭学習に対する保護者の意識をさらに高める。(全学年) ○「output」活動を通して、考えが深まったや発想力が高まった」と回答する生徒の割合が70%以上。(後期課程) ○年間を通して、各学年の「おすめの本」貸出達成児童80%以上。(前期課程)	・家庭学習の時間等のアンケート結果を配布し、家庭での学習に関心をもってもらう。 ・全教科を通して、「条件に合わせて書く」「自分の意見をまとめて書く」などの活動を取り入れる。(後期課程) ・各学年の「おすめの本」を設定し、読書を薦める。(前期課程)	A	・1年間を通して家庭学習のアンケートを定期的に払い、その結果を適宜として配布することができた。 ・年間を通して「読書の目標」に近づいているだけ活動を仕組むことができた。 ・取り組みを進め、後半でおすめの本の読書により推進し、冊数を増やすように呼びかけた。	A	・学力向上には基礎・基本の徹底が、まず大切だと考える。先生方の実践に感謝しつつ、今後は家庭教育力や地域教育力が子ども達を伸ばせることになればと思う。	・学力向上対策コーディネーター ・研究主任
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○縦割り掃除を年間を通して行う。 ○前期課程の縦割り遊びを年10回以上行い、異学年との交流を図る。	・全学年による縦割り掃除を行う。 ・前期課程児童による縦割り遊びを行う。 ・体育大会では、縦割り活動班対抗の種目の実施。	B	・規模を縮小し、縦割りで掃除をする場所を設定したうえで実施を行った。 ・11月より野外において3月まで計画的に活動を行った。 ・今年度は、体育大会を半日開催とし、縦割り活動対抗の種目は中止とした。	B	・大人になった時、弱さを克服できる「芯の強さ」をもった人間になってほしい。そのために、集団の中で揉まれ鍛えられる体験をしてほしい。	・特別活動主任
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○「いじめに気が付く、注意したり、先生に知らせたりできる」という児童生徒80%以上。 ○いじめの発生時に組織的な対応ができていてと答える職員90%以上。	・いじめの定義や事例について、全てのクラスで道徳の授業や人権教室等を行い、全校児童生徒の人間意識が高まるようにする。 ・発生したいじめ事案をその日のうちに共有できるように。生活部、教育相談部、特別支援教育部が中心となり、管理職の指示のもと全職員と連携を図る。	A	・前回同様80%の児童生徒が、何らかの対応をすると回答している。 ・以前に比べていじめの発生が減少し、些細なトラブルについてもいじめとならないことを伝え、児童生徒の意識も変わり始めている。 ・「いじめ」の定義に関する研修を行い、全職員でこれまでの捉え方を変更し、些細なことでもすぐに対応していくと確認した。	A	・いじめが「0」ということが、むしろ問題だと思う。相談がでけない雰囲気のある学校にならないよう、今後も先生方の尽力をお願いしたい。	・生徒指導主任 ・生活指導主任
●健康・体づくり	●運動習慣の改善や定着化	○児童生徒一人ひとりを大切に、受容と共感的理解に基づいた生徒指導の育成	・月1回の人権集会の実施や、授業を通して人権・同和教育を行う。 ・「自分の友達との違いを受け入れながら、誰とも公平に接している」とのアンケートで達成割合90%以上。 ・「自分自身で善悪の判断をしながら物事を考えて行動します」とのアンケートで達成割合90%以上。	A	・学校再開後、人権集会や授業を通して人権・同和教育を実施し、善悪の判断項目で84%の児童生徒ができていてと答えていた。 ・年間の計画に沿って道徳教育の中で人権・同和教育を行うことができた。 ・定期的に教育相談の場を設定し、情報交換を行ってきた。	B	・学校評価アンケートにある「違い」を認め受け入れる姿勢についてだが、大人が理解しているつもりでも実行できない現実がある。大人が悪い見本を子ども達に見せてしまっているように申し訳ない気がする。	・人権・同和教育担当 ・道徳主任
	○望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成	○「健康に食事は大切である」と考える児童生徒90%以上	・朝食摂取、残菜0を呼びかける。 ・五大栄養素の大切さを食育により指導する。	B	・年間を通して食の大切さを通信等により啓発を行ってきた。 ・78%の児童生徒が意識しているが、「バランス」好き嫌いの目も向けるように今後も啓発を継続していきたい。 ・5年生以上の家庭科で調理実習を含めた食育指導を行った。	B	・後学期は朝食もきちんと摂っているようだが、学年が上がるといって欠食が目立っているのが気になる。 ・異物混入や食中毒の防止のため、給食調理担当の方々の日常的な取り組みに感謝したい。 ・子どもたちには地産地消の良質な食材をできるだけ提供して、玄米の量もかさ実感してほしい。	
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●時間外在校等時間40時間内の職員80%以上	・タイムマネジメントを行うとともに、定時退勤日の推進や部活動指導の分業化による負担軽減、平日の残業時間の削減を強く進める。	A	・毎週水曜日の提示退勤日の定着を図り、その他の勤務日に關しても残業時間の削減を行うことができた。 ・業務改善として設定数値目標を達成することができた。(平均86%)	B	・働き方改革の波がどこにまできている。業務改善を図ることが必要だが、そのことで教育の質が低下しないようにしてほしい。	・管理職
	○校務等の効率化の推進	○校内LANを用い、全職員が校務に関するデータの共有を図り、全職員参加の会議の時間を15%削減	・校内LANで校務データを共有し、誰もが利用できる環境にすることで効率化を図る。	A	・校内LANによる公務データの共有を図ることで、打ち合わせの時間が減り、職員会議もデータを行うため時間の削減ができた。	A	・学校全体で電子化を進めているのでこれからも先生方にうまく使ってほしい。	・管理職
(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目								
重点取組	重点取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	主な担当者
○母校の誇りづくり	○自ら笑顔であいさつや返事ができる児童生徒の育成	○登下校時の挨拶を自らできる児童生徒70%以上 ○廊下等ですれ違う時に挨拶が出来る児童生徒50%以上	・登下校時の挨拶は、子どもから挨拶をするのを待つのではなく、大人(職員)側から積極的に声をかけるように共通理解を図り、実践する。	A	・生徒会や職員で登校時に通路で挨拶することを実践してきた。自分から挨拶すると回答した児童が79%となり少しずつであるが効果が表れてきた。	B	・地域での子ども達は行事等では元気に挨拶ができていますが、日常的には元気がない印象がある。恥ずかしくても、笑顔だけでも返せる子になってほしい。	・生活部
	○児童生徒会活動の充実	○児童生徒会活動の活性化を図り、受容と共感的理解に基づいた生徒指導の充実	・代表委員会を開催し、児童生徒の意見を取り入れた活動を行う。 ・地域貢献・ボランティア活動を行う。 ・生徒総会の実施。	B	・今年後半であるが代表委員会を開催し、児童の意見を取り入れた活動を行った。 ・年賀状作成、募金活動、清掃活動を中心に活動をした。 ・感染対策をうたうで、生徒総会を開催した。	A	・新型コロナウイルス感染拡大の影響で行事ができていない中、いろいろな大変だっただろうが一定の成果をあげたと思う。	・特活部 ・児童生徒会担当
○特別支援教育の充実	○児童生徒一人ひとりの理解や個に応じた指導の改善	○児童生徒一人ひとりの実態把握と理解をめざし、全職員による情報共有の場を学期に2回以上設ける。 ○より新しい特別支援教育の視点を取り入れた全職員対象の研修を年に1回以上行う。	・年度初め、学校行事の前、児童生徒指導協議会、年度末において、情報交換の場を設ける。 ・児童生徒の困り感を特別支援・生徒指導・教育相談の三方向から分析し、ケース会議を通してより良い支援や指導、関係機関との連携につなぐ。 ・特別支援教育に関わる専門的な知識や経験を有する講師を招聘し、職員研修会を行う。	B	・計画通りに開催し、適宜情報交換を行ったうえで生徒指導に生かすことができた。 ・その都度ケース会議を行い、情報を集め、対策を練って対応に当たることができた。 ・コロナ禍の中、外部講師等を招聘した研修会を開催することができなかった。	A	・就学支援に関しては、入学前から適正な支援を工夫してきた玄海町としての取り組みは非常に手厚いと感じる。今後さらなる充実を望みたい。	・特別支援部
●・・・県共通 ○・・・学校独自 ○・・・志を高める教育								
5 総合評価・次年度への展望	・学校教育目標「みらいへステップ～3つの笑顔で～」については児童生徒はもとより地域にも浸透し、考えが広まっていた。今年度も県指定の学力向上推進地域指定を継続して取り組み、全職員で学習スタイルを定着させ公開授業を実施することができた。心の教育として義務教育学校の特色を出し、9か年を通した児童生徒の育成に努め、それぞれのよさと認め、何かあった場合にも早期に対応できる体制作りを行ってきたことが現在の学園の落ち着いた様子へとつながっている。児童生徒会の取り組みについては、コロナ禍の状況でできる活動に限られていたがその中で自分達の思いを具現化できるように実行してきた。 ・課題として、今年度学力向上の取り組みを行ってきたが、児童生徒の学力への成果がまだまだ十分とは言えない。次年度も学力向上を中心にした学習スタイルを構築し、向上を促していきたい。また、児童生徒がさまざまな経験を積み中で、主体的に考え行動できるように学校を上げて仕組む必要がある。							